モ 2000 米ノ高所デナケレバ出會ハナイノデアル。但シ樺太デハ榮濱ノ海岸ニ產シテ居ル。要スルニ乘鞍岳肩小屋附近ノ高原ハ *Cladonia* ノ豐庫デアツテ且ツ多量ヲ產スルコトハ日本北アルプス連峯中第一ノ場所デアル。

○パルメリア・セントリフーガ吾國ニ產ス（朝比奈泰彥）

從來吾國高山性ノ *Xanthoparmelia* 節ヲ代表シテ居タモノハ *Parmelia incurva* ト *P. diffugiens* (Bot. Mag. Tokyo, Vol. XLI., p. 348, 1927) トデアツタ。此ノ *P. diffugiens* ハ西駒頂上デ採集シタ予ノ送品ヲ基礎トシテ ZAHLBRUCKNER ノ設定シタモノデ、歐州產ノ *P. centrifuga* ニ酷似スルコトハ ZAHLBRUCKNER モ已ニ指摘スル所デ、差異ハ葉體ノ分岐ガ互ニ分離 (discrete) シテ居リ *centrifuga* ノ如ク密接重疊シテ居ラヌ點ト、裏面ハ全ク暗色デ僅ニ周邊ニ於テ淡明デアルコトハ *centrifuga* ノ全裏面ニ亙ツテ白色デアルノト全ク異ルノデアル。反應ハ兩者全ク同一デ Th. K+ 黃色、Med. Ca, −, KC+ 紅色デ顯微化學的操作ニヨリウスニン酸、アトラノリン及アレクトーロン酸ヲ檢出シタ。

おほうばゆりノ巨大莖ト朝比奈先生
(昭和 14 年 9 月 1 日　前川撮ス)

頃日予ハ越中立山產ノ *diffugiens*, 標本ヲ再檢シツヽアリシ時裏面ノ白色ナル共雜品アルヲ認メヨク調ベタ所 *centrifuga* ニ外ナラヌコトヲ知リ更ニ北海道產ノ標本デ無造作ニ *diffugiens* トシテ片附ケテアツタモノヲヨク見ルトトムラウシ岳ノモノハスベテ *centrifuga* デアツタノデ茲ニ *P. centrifuga* ガ吾國ニモ產スルコトヲ決定シタ次第デアル。

○おほうばゆりノ果莖（前川文夫）

コノ寫眞ハ本誌主筆朝比奈泰彥先生デアルコトハ讀者諸兄ノスグ御判リノコトト思フガ、先生ガ右手ニ錫杖ノ樣ニ重サウニ持タレタ丈ノ高イモノハ果實ニナツタおほうばゆり (*Cardiocrinum Glehni* MAKINO) デアル。コレハ本年7月10日、先生ガ信州上高地カラノ歸途、同地下流ノ澤渡デ一泊サレタ所、旅館ノ床ノ間ニ飾ツテアツタノヲ早速主人ニ交涉､讓リ受ケラレテ、脹物ニ觸ル樣ニシテ御自分デ東京迄持チ歸ヘリ東大理學部植物學教室ニ寄贈サレタモノデ、ソノ高サヲ示ス爲ニ先生ヲ拜借シテ撮ツタノデアル。先生カラ伺ツタ處デハ、旅館ノ主人某氏ガ本年2月ニ上高地ノ某溫泉ノ源泉附近デ積雪ガ